
命

阿田怜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

命

【Nコード】

N8840V

【作者名】

阿田 怜

【あらすじ】

私の息子、広大は死にました。みなさんのいじめにより、広大は苦しみそしてそれを理由に息絶えたのです。我が息子を亡くした私は、みなさんに復讐を誓います。それではみなさん、さようなら。

広大は人を殺しました。

人生の中での最大の罪、殺人です。メディアが事件を流し、ニュースにも流れました。みなさんも知っての通りの事だと思います。一人が死んだのです。人の手によって、亡くなってしまったのです。

一年間に自殺者は三万人以上とされていますが、広大はその中の一人となっていました。

私の息子、広大はたった八歳という若さで自らの命をその手にかけました。小学三年生です。その幼い広大は学校という狭い世界しか知らない、子どもでした。

たった八歳の子ともです。夢と希望に溢れた子どもが、絶望しそこで歩みを止めてしまったのです。これは異常事態だと私は思います。

何が広大を追い詰め、自殺という手段を取らせたのでしょうか。

教師はどうしていたのか、原因は一体何なのか。広大が死んで二週間、この学校の対応には驚きました。確かに私は広大を十八という若さで生み、今もまだ二十六です。父親もおりませんが決して広大を自殺に追い込むような事は致しておりません。

このクラスの担任にして、このクラスメイトなのだとはつきり分かりました。

私は広大の母親ですが、広大本人ではありませんので広大が思っていたこと、感じたことは私には計り知れません。けれど、広大はその感情をどこにもぶちまけることが出来なかったのだと思います。私は広大の母親として、とても未熟者だと痛感いたしました。

私の目に映るみなさんは、まるで感情を無くし死んだ魚の様な目をした俯く屍に見えています。

広大はみなさんから受けたいじめが原因で、その命を自ら断ちま

した。

みなさんは、命についてどのようにお考えでしょうか。それぞれに一つしかない尊いもの、それともそこら中にある軽いものとも考えているのでしょうか。

広大は私のただ一人の子どもです。結婚もしていない私は、女で一つ八年間、広大をこの手で育てました。父親を知らない広大に悲しい思いはさせまいと、必死に頑張つてまいりました。それは、あなたの方のお父さんやお母さんにも当てはまる事なのです。

たった一人の我が息子は、もうこの世にはいません。心にぽっかりと穴が開いた気分で、しばらくは食事ものどを通らず無気力でした。

ある時の晩、深夜に目覚めた私は夢を見ました。広大の夢です。夢の中の広大はとても幸せそうに笑っていました。もう一度、広大の笑顔が見たい。目を覚ました時そう思いましたが、広大はどこにもいません。

私が広大を返して下さいと、頭を地面にこすりつけたらみなさんは広大を返してくれますか？ もし返してくれるのなら、私はどんなことでもやってみせます。大金でも玩具でもゲームでも、息子が返ってくるのならどんな事でも出来る覚悟が私にはあります。

ですがもう二度と、広大は帰ってきません。

広大が自殺という行為をした原因は、みなさんにあります。取り返しのつかない事をしてしまいましたね。言つてしまえば、みなさんは殺人犯です。それなのに、警察に捕まつて檻の中にも入らないのは本当に不思議な事です。

みなさんは、罰を受けるべきだと私は思います。

その前に、まだみなさんに質問したい事があります。

広大はいじめにより、心に大きな傷を負いました。そのせいで広大は苦しみ、そして死にました。人は他人を傷つければ、何らかの罪を負いますね。ですが心の傷はどうなのでしょう。心の傷が死に繋がっていたとしても、どうして人の心に傷つけても裁かれないの

でしょうか。

みなさんは広大が自分のせいで死んでも、罪にはならないと考えたから広大に酷い仕打ちをしたのでしょうか。まさか、広大がそんなに傷ついて死ぬとは思わなかったなんておもっている人はいませんよね。

広大がみなさんに何かをしたのかもしれませんが。とても酷い言葉を使ったのかもしれませんが。けれど、みなさんが取った行動の結果がこれです。悲しいですね、誰も幸せになれない最悪の結果です。

世の中には、沢山の人の命がこうして今も死んでいくのです。殺人や、広大と同じように死んでいく者たちが何万といえるのです。

では、他人を殺すのと自分を殺すのと一体何が違うと思いますか？ 死んでゆくのは一つの命だけです。もしそれが同じだと言うのなら、自分を殺した人が裁かれない理由を答えてみてください。人を殺した広大の母親が、咎められないのは一体なぜでしょう。

みなさんには難しい質問だったでしょうか？ 自分を見つめ、答えを出した広大と同じ三年生なら難問ということはないでしょう。

それではみなさん、顔を俯かせている子も私の持っている物に注目してください。

今私が手に持っている物は、見ての通りカッターナイフですね。

広大はこれを使って死にました。右手で持って、左手の手首に押し付けて、そして深く切ったのです。

このように……みなさん騒がないでください。大丈夫です、私は自分の命を簡単には投げ出しません。血が出てしまいましたね。とても痛いです。

見てください。これが生きている証です、みなさんの体にも私と同じように赤い血が流れているのです。

傷つくのはとても痛いですね。私の左手首はいずれ傷が塞がりそして治ります。ですが心の傷は、そう簡単には治りません。ほんの些細な出来事でも傷口は開くのです。広大の最期は痛い思いをして泣いて終わりました。心がボロボロになっても、決してそれを私に

は見せようとはしませんでした。

自殺をするのは逃げだと、負け犬だと仰った方がこの中にいるようです。あなたには、私が今までずっと話してきた事の内容は理解できていませんよね。ですが今こうして私は真剣に話しているの、あなたももう少し真面目に聞く努力をしてください。

私は、みなさんを殺してしまいたいほど憎いです。今までは広大と同じ目にあって死ねばいいのにと思っていました。ですが、そんな風に思っただけでいいのです。みなさんを殺しても、また私と同じ思いをする人が増えるだけなのです。だから、私はみなさんに復讐を誓い、この教室の中、みなさんの前をお借りしてお話をさせてもらっています。安心してください。先ほども言った通り、みなさんを殺しても仕方がないのです。

では最後に、自分がされて嫌な事は、相手にはしないでください。これからは、自分の取るべき行動を深く考えてからにしてください。自分のとった行動のせいで、誰かが傷つくかもしれないと言うことを頭の中にいつも入れてください。

みなさんには、まだ命があります。これから生きて行く権利があるのです。どんなに辛い事があっても、にっちもさっちもいかなくなくても、決して広大の真似をすることだけはしないでください。みなさんはこれから小学校を卒業、中学、高校、大学と大人になっていきます。そして幸せな家庭を築くなり子どもを生むなりしてください。そうしておばあちゃんおじいちゃんになるなり、不治の病にでもかかって死んでください。私的には後者の方が気分が一段と良いのですが、決して自殺だけはこの私が許しません。広大の分も生きてください。

時に人生は、残酷な時もあります。楽しい事ばかりではありません。幸せな時間はほんの一握りの一瞬かもしれません。人生は人それぞれです。良いも悪いも、その人次第で変わる事が多いのです。

もしまたみなさんが誰かを傷つけるような事があれば、見つけ次第私はその時本当にやりたい事を、みなさんにすることを約束いた

します。

これで私の復讐は終わりです。

それではみなさん、さようなら。
それから死んでください。

残りの楽しい人生を存分に味わっ

（後書き）

いじめにより、自殺した息子の母親の復讐劇です。

復讐といっても、何をするわけでもなくこの母親はただ生徒の前で語るわけですが、

「命の重さ」をどう重々しく伝えるか考えに考えた行動でした。

生徒の前で語る事で、僅か八歳という幼い価値観をぶち破る事が小さな復讐でした。

この話を聞いていた生徒の後日談を考えるだけで筆がスラスラと進みそうですが、それはまたの機会に。

ご愛読ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8840v/>

命

2011年8月18日03時32分発行